

都道府県がん診療連携拠点病院の推薦意見書

1. 推薦医療機関

香川大学医学部附属病院

2. 推薦手続き

都道府県がん診療連携拠点病院（以下「県拠点病院」という。）の整備については、県における医療提供体制の確保に関する重要事項であり、これまでの地域がん診療連携拠点病院（以下「地域拠点病院」という。）の整備のあり方と整合性がとれたものである必要があることから、本県では、香川大学医学部附属病院を県拠点病院として推薦することについて、本年10月20日に「3. 推薦の理由」のとおり香川県医療審議会に諮問し、答申があったところである。

3. 推薦の理由

(1) 第5次保健医療計画及びがん対策推進計画における対策

がん診療連携拠点病院（以下「拠点病院」という。）の整備に当たっては、第5次香川県保健医療計画（平成20年3月。以下「医療計画」という。）及び香川県がん対策推進計画（平成20年3月。以下「がん対策計画」という。）で定める目標に沿ったものである必要がある。

がんは、本県において、昭和52年より死因の第1位となっており、平成18年のがんによる死亡者数は2,879人で全死亡者の28.1%を占めている。高齢化が全国平均を上回っている本県では、がんによる死亡者数は今後とも増加していくと推測されることから、医療計画及びがん対策計画では、がんによる死亡者をできるだけ減少させることを目標とし、がん診療の体制の整備・充実について、県内のがん診療連携の中核となる県拠点病院の整備を図ることとともに、以下の個別の目標を定めているところである。

- ・ すべての拠点病院において、5年以内に、放射線療法及び外来化学療養を実施できる体制を整備する。
- ・ 緩和ケアの知識及び技能を習得しているがん診療に携わる医師数を増加させる。
- ・ すべてのがん診療に携わる医師が研修等により緩和ケアについての基本的な知識を習得する。
- ・ 緩和ケアに関する専門的な知識及び技能を有する緩和ケアチームを設置している拠点病院等がん診療を行っている医療機関を整備する。
- ・ 住み慣れた家庭や地域での療養を選択できる患者数を増加させる。
- ・ 5大がん（肺がん、胃がん、肝がん、大腸がん、乳がん）に関する地域連携クリティカルパスを整備する。

② 指定の要件に加えて付記すべき点

香川大学医学部附属病院は、県拠点病院の指定の要件に加えて、以下の取組を行っており、(2)に掲げる考え方に照らし、優れた取組を行っている。

イ 腫瘍センターの活動

香川大学医学部附属病院は、同病院のがん診療を診療科横断的に行う司令塔的な活動と県内のがん診療を支援する機関として、平成19年4月に、最新鋭のがん診療設備と専門スタッフを備えた「腫瘍センター」を設置したところである。

同センターの活動は、①県内のがん診療の中核施設として地域のがん診療に寄与すること、②教育研修施設として学生・研修医のがん診療教育やがん診療に従事する医療従事者を育成すること、③研究施設としてがん研究を積極的に推進することを使命とし、以下の活動を行っており、本県の高度ながん診療の整備・充実に貢献している。

- ・がんの集学的治療（手術・抗がん剤・放射線治療など）の実施
- ・診療科間のがん診療連携の企画・運営
- ・がん治療に係る医療機関等との連携及びその推進
- ・緩和ケアの推進
- ・がん患者登録
- ・がん予防・診療についての研修及び啓発活動

ロ がんプロフェッショナル養成プランによる専門医等の養成

近年の高度化するがん治療においては、がん治療に習熟した医師、薬剤師、看護師及び医療技術者（コメディカル）の各種専門家がチームとして機能することが重要であり、薬物療法や放射線治療等の専門医、がん専門薬剤師、がん専門看護師、がん専門の医療技術者など、がんに特化した専門の医療従事者をチーム医療に役立つ体制で養成することが求められている。

このような観点から、中四国の8大学（香川大学、愛媛大学、徳島大学、高知大学、高知女子大学、岡山大学、川崎医科大学、山口大学）では、コンソーシアムを作り、各大学院で多職種のがんの専門職を養成するための共通のカリキュラムを運営し（中四国がんプロフェッショナル養成プラン）、効率的かつ効果的な養成に取り組んでいる。このコンソーシアムには、8大学のほか、県内では県立中央病院、香川労災病院、三豊総合病院及び高松赤十字病院が参加しており、地域拠点病院との連携が図られている。したがって、香川大学医学部附属病院は、教育機関として十分な教育資源と体制を有するとともに、他の地域拠点病院との連携の実績がある。

ハ 地域拠点病院への診療支援

香大医学部附属病院は、現在、県内の地域拠点病院に放射線治療医や化学治療医を派遣しており、地域拠点病院の支援のための専門的な人的資源を有する。

二 緩和ケアの推進

香川大学医学部附属病院では、国の研修プログラムを履修した緩和ケアの指導医を置き、がん医療に従事する医師を対象とした緩和ケアの研修会を年1回開催する

	都道府県拠点	地域拠点
新規申請	1 (地域拠点→県拠点)	0
既指定病院	0	4
計	1	4

>合計 : 5

【新規申請病院】

申請区分	都道府県がん診療連携拠点病院
病床数	613 床
新入院がん患者数 (新入院患者数に占める割合)	2,550 人 (28%) / 年
外来がん患者延数	37,080 人 / 年
悪性腫瘍手術総数	143 件 / 2か月
放射線治療(体外照射) [患者実数]	429 人 / 年
[照射回数]	1,514 回 / 2か月
化学療法総数 (入院) [のべ患者数]	111 人 / 2か月
[のべ処方日数]	273 件 / 2か月
化学療法総数 (外来) [のべ患者数]	211 人 / 2か月
[のべ処方日数]	281 件 / 2か月
緩和ケアチーム新規依頼件数	29 件 / 2か月
病理診断件数(迅速検査件数)	775 件 / 2か月 (99 件 / 2か月)
相談支援センター相談件数	4 件 / 2か月
指定要件の充足度	・指針に定める必須要件の整備が行われている。

【参考: 既指定病院】

区分	地域がん診療連携拠点病院
病床数	519 床
新入院がん患者数 (新入院患者数に占める割合)	1,940 人 (20%) / 年
外来がん患者延数	37,790 人 / 年
悪性腫瘍手術総数	67 件 / 2か月
放射線治療(体外照射) [患者実数]	89 人 / 年
[照射回数]	590 回 / 2か月
化学療法総数 (入院) [のべ患者数]	171 人 / 2か月
[のべ処方日数]	1,716 件 / 2か月
化学療法総数 (外来) [のべ患者数]	576 人 / 2か月
[のべ処方日数]	23,031 件 / 2か月
緩和ケアチーム新規依頼件数	3 件 / 2か月
病理診断件数(迅速検査件数)	856 件 / 2か月 (23 件 / 2か月)
相談支援センター相談件数	32 件 / 2か月

区分	地域がん診療連携拠点病院
病床数	631 床
新入院がん患者数 (新入院患者数に占める割合)	2,564 人 (23%) / 年
外来がん患者延数	18,763 人 / 年
悪性腫瘍手術総数	222 件 / 2か月
放射線治療(体外照射) [患者実数]	249 人 / 年
[照射回数]	2,261 回 / 2か月
化学療法総数 (入院) [のべ患者数]	217 人 / 2か月
[のべ処方日数]	570 件 / 2か月
化学療法総数 (外来) [のべ患者数]	164 人 / 2か月
[のべ処方日数]	480 件 / 2か月
緩和ケアチーム新規依頼件数	7 件 / 2か月
病理診断件数(迅速検査件数)	954 件 / 2か月 (44 件 / 2か月)
相談支援センター相談件数	95 件 / 2か月

高松赤十字病院

区分 病床数	地域がん診療連携拠点病院 589床
新入院がん患者数 (新入院患者数に占める割合)	1,511人(15%) /年
外来がん患者延数	54,945人 /年
悪性腫瘍手術総数	130件 /2か月
放射線治療(体外照射) [患者実数]	94人 /年
[照射回数]	87回 /2か月 (放射線機器の更新を行っ ていたため回数が人数より少ない)
化学療法総数(入院) [のべ患者数]	231人 /2か月
[のべ処方日数]	591件 /2か月
化学療法総数(外来) [のべ患者数]	214人 /2か月
[のべ処方日数]	365件 /2か月
緩和ケアチーム新規依頼件数	12件 /2か月
病理診断件数(迅速検査件数)	1008件 /2か月 (1件 /2か月)
相談支援センター相談件数	4件 /2か月

独立行政法人労働者健康福祉機構 香川労災病院

区分 病床数	地域がん診療連携拠点病院 394床
新入院がん患者数 (新入院患者数に占める割合)	1,678人(27%) /年
外来がん患者延数	47,526人 /年
悪性腫瘍手術総数	186件 /2か月
放射線治療(体外照射) [患者実数]	255人 /年
[照射回数]	1,157回 /2か月
化学療法総数(入院) [のべ患者数]	114人 /2か月
[のべ処方日数]	397件 /2か月
化学療法総数(外来) [のべ患者数]	385人 /2か月
[のべ処方日数]	385件 /2か月
緩和ケアチーム新規依頼件数	35件 /2か月
病理診断件数(迅速検査件数)	2116件 /2か月 (57件 /2か月)
相談支援センター相談件数	8件 /2か月